海岸地域における森林の衰退と回復に関する研究

寺本 行芳

鹿児島大学農学部砂防・森林水文学研究室

このたびは，大変栄誉な賞を頂きまして心から嬉しく思います．学会長の愛媛大学農学部江﨑次夫先生をはじめ，学会員の皆様に心から感謝申しあげます．

今回，受賞対象となりました業績は，吹上砂丘地や，桜島の山腹斜面を含む海岸地域を対象とした森林の衰退と回復について検討したものです．

吹上砂丘地においては，クロマツ枯損後の海岸植生の破壊が飛砂に及ぼす影響と，マツ枯損後の海岸植生の回復過程について検討しました．その結果，マツ枯損被害区では，飛砂は前砂丘頂部を起点として240m離れた付近まで及んでいること，海岸植生は前砂丘頂部を起点として 300m付近まで破壊され枯損被害前と比較すると密度においても樹高においても十分な回復に至っていないこと，木本植生の樹齢，個体数，種数および多様度指数からみた植生の遷移度は低いことを明らかにしました（寺本・下川，2007a）．

桜島においては，山腹斜面における植生の衰退は広範囲に及び，その程度は南岳火口からの距離に規制されること（寺本・下川，2007b），1963 年の健全に近い植生の垂直分布と比較すると 2007 年の植生は十分な回復に至ってないこと（寺本・下川，2007c），噴火活動の衰退は表面侵食土砂量および降下火山灰量の大幅な減少だけでなく，木本植生の立地環境の改善および年輪幅指数の増加をもたらすこと（寺本・下川，2008a，2008b）等を明らかにしました．

受賞業績の対象となりました海岸林学会誌への投稿論文作成にあたりましては，本当に多くの皆様からご指導とご協力を頂きました．ここでは特に，日頃から大変お世話になっています先生方のお名前を挙げさせて頂くことで，感謝の意を示したいと思います．

私の恩師であります鹿児島大学農学部教授の下川悦郎先生には，修士課程を出たばかりの右も左もわからない私を研究室の助手として採用して頂き，これまでずっと温かく，寛容にご指導して頂きました．今日の私があるのは，下川先生のおかげです．

私の卒業した鹿児島大学農学部砂防学研究室の偉大な先輩であります，山形大学理事・副学長の中島勇喜先生には，ことあるごとに，ご指導頂くとともに温かい言葉も掛けて頂き，大きな励みになっています．中島先生は，山形大学の学部長から理事になられ，私にとっては雲の上の存在なのですが，私の様な者にも，ご指導と暖かい言葉を掛けて頂いていることに改めて感謝いたします．

愛媛大学農学部教授の江﨑次夫先生には，この学会に入会するきっかけを与えて頂くとともに，いつも温かいご指導・ご配慮に感謝しています．実は，江﨑先生と私は同郷であることを知り，私は勝手に運命的なものを感じている次第です．

鹿児島大学の下川先生，山形大学の中島先生，愛媛大学の江﨑先生の 3 人の先生は，若い頃からのお知り合いで，お互いに切磋琢磨されて多くの研究成果を挙げてこられていると同時に，友情を築かれています．3 人の先生がこれまで築いてこられた信頼関係が，私を日本海岸林学会へ導いてくれたと勝手に思っています．

さらに，日頃からご指導頂いています琉球大学農学部教授の井上章二先生，海岸林学会誌への論文投稿及び編集で大変お世話になっています東京都市大学環境情報学部教授の吉崎真司先生，鹿児島大学農学部砂防･森林水文学研究室の皆様など，本当に多くのご指導・ご協力を受けています．紙面中に書ききれなかった方々を含む多くの皆様のおかげで，このような栄誉な賞を頂けたと思います．ここに改めて感謝申し上げる次第です．

今回，大変栄誉な賞を頂けたことを糧に，今後とも「現場密着型」の精神で努力して参りますので，皆様，ご指導何卒よろしくお願い致します．本当に有り難うございました．

引用文献

寺本・下川：海岸林学会誌，Vol.7 No.1，7-12 (2007a)
寺本・下川：海岸林学会誌，Vol.7 No.1，19-23 (2007b)
寺本・下川：海岸林学会誌，Vol.7 No.1，31-35 (2007c)
寺本・下川：海岸林学会誌，Vol.7 No.2，17-20 (2008a)
寺本・下川：海岸林学会誌，Vol.7 No.2，33-36 (2008b)